

横浜 SSJ ニュース

第 18 号

2014 年 9 月 26 日発行

発 行：横浜 SSJ

(特定非営利活動法人 横浜市精神障がい者就労支援事業会)

〒240-0004 神奈川県横浜市中区鶴町 1-6-7 関内伊藤ビル 4F C号

TEL 045-228-8220 FAX 045-228-8221

発行責任者：理事長 青 柳 智 夫

編 集：横浜 SSJ ニュース編集委員会

印 刷：ワークショップメンバーズ

2015 年度障がい者就労支援事業に関する要望活動 スタートしました!!

2015 年度に向け当会の実践から出てきた要望を 5 点に絞り込み、要望陳情活動を開始しました。市精連と一緒に、6 月から 7 月にかけて横浜市議会の自由民主党、公明党、民主党、共産党と政党懇談会を実施しました。今年は、当会の利用者数名も、要望に同行していただき、各議員に直接訴えていただきました。8 月には、横浜市長への要望書、横浜市議会議長への陳情書を提出しました。今後も毎年、必要な要望をしてゆく予定ですので、引き続きのご協力をお願いします。

理事長 青柳智夫

1. 精神障がい者の職場定着支援の充実強化について

主体的にフォローしている職場の定着率はフォローしていない職場の倍近くとなっているという実態調査の結果があります。精神障がい者の雇用継続のための職場定着支援策を充実させてほしいという要望です。

2. 地域活動支援センター機能の職場定着支援への活用について

地域活動支援センター機能について、生活を支えることにより仕事を継続するという職場定着の機能の活用をより進めていただきたいという要望です。

3. 横浜市及び関係機関における精神障がい者雇用の実現及び、実習先の部署の拡大・充実について

横浜市において精神障がい者の雇用を実現してください。単発的な 1 名のみのアルバイト雇用ではなく、複数名、体系的に雇用して企業等にモデルを示してください、という要望です。

4. 精神障がい者の就労先として横浜市委託事業の継続と障害者の店の目的外使用許可の継続について

精神障がい者が、公的な斎場業務において、支障無い働きができるよう工夫したマニュアルの作成や、障がい特性に配慮したシフト管理を重ねることにより、横浜市と共に、創り上げてきた就労の場を今後も維持発展させてください、という要望です。

5. 精神障害者の採用カウントの改善、週 10 時間のカウントについて

精神障がい者の障がい特性を理解し、週 10 時間程度でも雇用率のカウントに入れ、働きやすい時間数で働ける環境整備ができるよう国に働きかけてください、という要望です。

2013 年度

市精連横浜 SSJ 合同就労支援シンポジウム報告

2014 年 2 月 19 日、障がい者権利条約を批准・発効した日、シンポジウムを実施しました。三菱商事太陽株式会社・渡邊雅子さん・斉藤智さん、ワタミフードサービス株式会社・吉田良二さん、文京学院大学・松為信雄先生、当法人理事で三木メンタルクリニック院長・三木和平先生、そして横浜 S S J 北部事業所・職員井上・従業員 2 名の出演にて、精神障がい者が安心して働き続けるための職場での配慮を、参加者 164 名と共に考えました。

企業側のコメントとして、①採用時の条件設定、②採用前研修の実施、③ワークサポート室の設置、④フレキシブルな就労形態の創設、⑤医療機関や就労支援機関との連携、⑥社内の連携（総務と現場）、⑦直属の上司を含めた社内理解の促進、等が掲げられ、当事者職員から、「適切な指導や仕事の結果に対するわかりやすいフィードバックで自信が持てるようになったこと」が、長く働き続けられるためのポイントであることが話されました。

そして、当日の最後にあった三木先生の話のように、精神科医療の基礎について定期的に確認し合うことが良いのだと、確認しました。

このようなシンポジウムを継続し、定期的に情報共有することが精神障がい者雇用の推進にとって重要であり、私達の課題でもあります。
(J/W:職員・谷崎育子)



横浜SSJ 第8回定例総会

総会前研修 ～報告～

2014年5月21日に、横浜SSJの定例総会が開催されました。

2013年度の事業報告・決算報告・監査報告及び2014年度事業計画・予算案、そして定款変更（理事の人数変更）、新任理事就任について審議され、各議案は満場一致で承認されました。今年度の大きな柱として、横浜SSJの中核事業である福祉的就労支援事業をより充実させることができるよう、再構築に力を入れていきます。その一環として、活動20周年を迎える久保山事業所の活動をまとめ、講演会・シンポジウムを開催予定しています。また、本人を中心とするサービスを実施していくことが出来るように、計画相談支援事業所の開設を目指します。

総会の前には研修として、「地域で実践してきた精神障がい者の就労～横浜での取り組みと歴史」について横浜メンタルサービスネットワークの鈴木弘美氏に、また「これからの横浜SSJへの期待、家族と共にやり遂げてゆくべきこと」と題し、NPO法人浜家連の鷹野薫氏よりお話をいただきました。

鈴木氏からは横浜市精連が集団アルバイトという市内作業所メンバーを対象とした活動を取り組み始めたことから、メンバーの働きたいという希望を実現してく流れの中で久保山事業所等の活動が生み出されてきたことを振り返りました。横浜SSJが受託している斎場業務は当事者や応援する人々によって作り上げられた事業であり、みんなの夢と希望を実現している事業であることを確認しました。

鷹野氏からは、家族、特に父親が子供の回復にどのように関わるかということから、横浜SSJの役割について話していただきました。横浜SSJには、現在働いている当事者やその家族がどのような思いを抱いているか、どのような経験をしてきたかを伝えて欲しい。体験した人の話が、これから挑戦しようという人には一番役に立つ、とのメッセージをいただきました。

今年の総会でも、横浜SSJの会員の方々、各部署が一堂に会し、自分達一人一人の役割を確認し、新たなスタートを開始することが出来ました。（すきっぷ：職員・鈴木典子）



横浜SSJ事業所から

さらニュース

その1

「とれたてみどり直売所さら」1周年

早いもので直売所さらは7月で1年経ちました。緑区区役所で営業をしています。1年経ってもお店には珍しいお野菜が納品されます。農家さんから情報を頂いたり、ネットでレシピを調べたりと変わらず行っています。また、6月には ”とまと” 7月には “とうもろこし” の収穫体験を市民の皆さんを招き、農家さんと共同で行いました。

そして、さらメンバーも1年経つとかなり慣れてお客様への対応も万全になりました。メンバーの活躍する姿ももちろんですが、新鮮野菜もお勧めです。是非ご来店下さい。

その2

「カフェガーデンさら」のその後

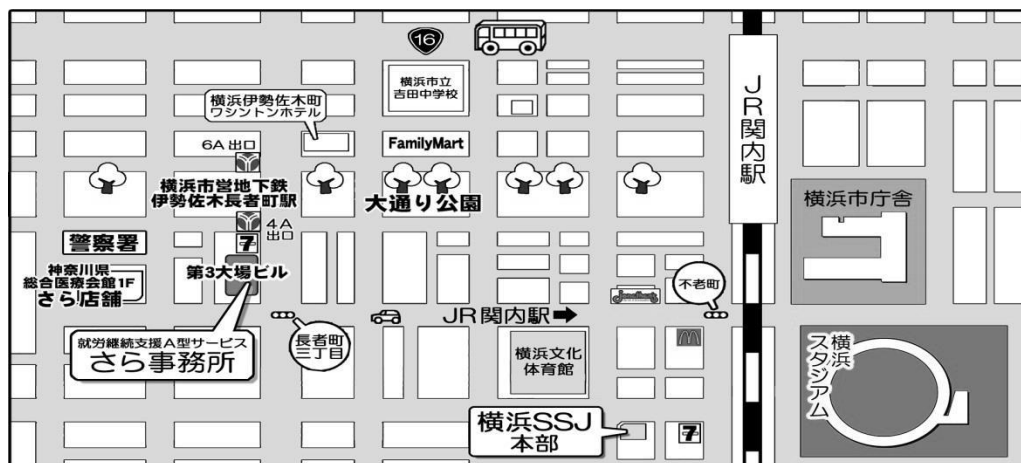
前回のSSJ ニュースでもお伝えしておりますが、直売所を開始してからランチに横浜市のお野菜を取り入れています。とても評判が良く、ランチ時間帯は多くのお客様が来てくださいます。店長さんも季節の野菜をどのように取り入れようかと楽しんでいます。肉料理、魚料理とランチには工夫がいっぱいです。とても、おいしいです！

是非、カフェガーデンさらへお越しくださいませ。お待ちしております。

その3

「さら事務所」移転のお知らせ

8月11日さら事務所は下記住所へ移転しました。よろしくお願いします。



〒231-0033

横浜市中区長者町 4-11-8 第三大場ビル 2階B

TEL 045-243-5220 (変更なし) FAX 045-341-0066

《地域活動支援センター すきっぷ》

***** すきっぷ近況 *****

§ 1 拡張しました！

この夏、8月12日より、地域活動支援センターすきっぷは、敷地面積を拡張し、新しい部屋で、プログラムを実施しています。つい先ごろまでは、フリースペースでのプログラムであったため、様々なお話が輻輳して、大きな声で言い直したりといったことがあったのですが、部屋を分けて勉強できるようになったので、集中してプログラムに取り組めるようになりました。

現在、アサーション、SST、歴史サークル、ストレス対処法といったプログラムを実施しています。自由に参加でき、自身の関心のあること等、テーマの持ち込みもできます。



§ 2 すきっぷの魅力

昨年来、プログラムの刷新を図り、さまざまなプログラム、イベント、レクリエーションとを展開してきました。現在のすきっぷが、どのようなところで、何が魅力となっているか、メンバーさんにたずねてみました。

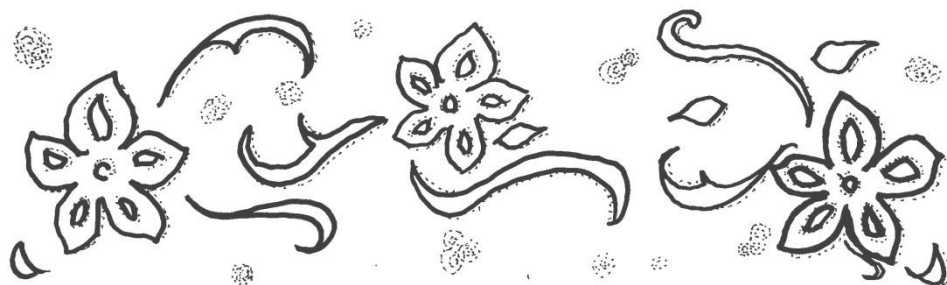
- ・職場でもなく、家でもなく、当事者同士、病気のことを隠さず話し合える。
- ・グループミーティングでは、いろいろな見方、考え方、捉え方、自分以外の方の考えを聞くことができ、さまざまな発言を参考に問題を解消できるようになった。

このほか、メンバーミーティングでのディスカッション、学習機会で検討した事例・練習課題に関する感想が増えています。

§ 3 パンフレット作成中

今回、限られた誌面で、お伝えできなかった魅力について、現在作成中のすきっぷの紹介パンフレットに記載する予定です。こちらにも利用されているメンバーさんの言葉を中心に作成をすすめています。記載事項を検討したミーティングは、たいへんな盛り上がりで、時間を忘れるほどでした。鋭意作成中です、ご期待ください。

(すきっぷ：職員・小澤千尋)



《北部事業所より》



仕事を続けていくには、やはり日頃のリフレッシュも肝心です。そして、今年の夏も暑かった！ということで①お休みの日の過ごし方、②暑さ対策のためのひと工夫を教えてくださいました。

H.M さん：①午前中に家事を終わらせてから土、日であれば午後からショッピングモールに行き、平日であれば午前中に夕飯の買い物へ。そのあとは家で DVD を観たり雑誌を見たり、刺繍をしたり、ポストカードの原画を描いたり。夕方 4 時からまた家事です。時々、友人とお茶をしに出掛けたり、実家に寄ったりします。
②帰宅したらすぐ冷水シャワーを浴びます。

S.O さん：①グループホームの決まり事をしたり、街に出掛けたり作業所に行ったりです。たまに実家に帰ったりします。グループホームに居ると毎日が忙しく感じます。けれど休みの日にやる事が無かったり、暇であればグループホームの中に居た方が充実した生活が送れると感じる今日この頃です。
②まず、僕は水をたくさん飲むので、外出したら水分を取ります。また、出掛ける時の荷物は重くならない為に必要な物以外は持たないようにしています。
あと、自宅ではクーラーを効かせています。お風呂では時々、真水を浴びます。

そして現在、北部事業所で勉強(実習)している T.M さんにお話を伺ってみました。

今年の 3 月から 9 月の半年間を北部事業所で、今後はまた久保山事業所に戻る予定です。先輩方やスタッフも優しく仕事を教えて頂き、ありがたく思っています。北部事業所で学んだことを生かして、久保山事業所でまた頑張りたいと思います。



《久保山事業所の紹介》

横浜 SSJ・久保山事業所という所は、湯茶と駐車所管理に分かれていて、私の所属する湯茶について説明します。

まず、湯茶は精神障がい者が 20 名近く在籍し、健常者の職員が 3 名おり、チームワークで、力を合わせて、働いています。仕事は、横浜市健康福祉局環境施設課の管轄の久保山斎場の休憩室の清掃および、湯茶器の洗浄、休憩室に茶器のセットなどが主です。仕事をするのに、特に難しい技術や、特別な教育などが無くても働ける、ハンディキャップを背負っている精神障がい者にとって、働きやすい職場です。

しかし、工場のラインのような単純な飽きのくる作業ではなく、一つ一つが手作業で、人手を使った作業です。仕事も、危険だったり、きわめて汚かったり、きつかったりしません。精神障がい者でも、安全で、安心して、働ける職場です。

精神障がい者の従業員の多くは、障害年金を受給しており、その年金と久保山の給与で生活している者がほとんどです。勤務日数は、精神障がい者の従業員は、シフトを組んでもらって、それに従って働いています。だいたい月 12 日前後です。

久保山事業所の精神障がい者は、親と同居で暮らしている独身者が多いです。中には、精神障がい者同士で、結婚している従業員もいますが、数は少ないです。従業員は、30 代から 50 代と、やや年齢も高齢化しています。

このように、我々は、日々このような感じで暮らし、働いています。簡単ながら、横浜 SSJ・久保山事業所・湯茶について、説明しました。

(久保山事業所従業員 米田達哉)

《ジョブアシスト横浜 ワークショップメンバーズ》

ジョブアシスト横浜(JAY)・ワークショップメンバーズ(WSM)が法内事業として就労移行支援・就労継続支援 B 型の多機能型事業所の形態で運営をはじめて 7 年が経ちます。この 7 年を振り返ってみると JAY については、

延 120 名が利用、内 74 名が就職しました。また WSM につきましては、所内の内職作業のみならず、所外作業も含め、より多くの工賃の獲得を目標に活動の幅を広げてきました。多機能型事業所となるまでは、別々の地域作業所として運営していましたが、現在では利用者登録者が JAY11 名、WSM48 名の合計 59 名、管理者、サービス管理責任者はじめ 11 名のスタッフ体制、法人内事業所単位でも、1 番の大所帯となりました。



今年度も JAY、WSM とともに利用者 1 人 1 人の個別支援計画に基づき、JAY は就労移行支援の役割として 10 名以上の就職者の輩出を目指すことと、安定して働けることができるための定着支援の実践、WSM については就労継続支援 B 型の役割として工賃水準の向上、

利用者の安定通所に向けた支援を重点目標として取り組んでいます。JAY では今年度に入り 3 名が就職しましたが、就職後の定着支援にも力を入れていきたいと思っております。また、今年 4 月からの障害者優先調達法の本格施行に伴い、印刷をはじめとした作業依頼、受注が大幅に増え、忙しい毎日ではありますが、このことが工賃アップだけでなく、作業に携わる利用者 1 人 1 人のモチベーション向上と、生活の質の向上につながることを切に願っています。これからも、スタッフ皆で考えながら、利用者が‘通いたい！’と思っていた

ける事業所づくりに取り組んでまいります。

(J/W:職員・星野順平)



メンバー・従業員の

～ 声 ～

「横浜市大看護学科での講演について」

前回、横浜市大看護学科において短めの講演を行いました。主に病気が発症し、入院したのち退院してから現在までどう過ごし、何を考え、感じてきたかを自分なりにまとめたものです。退院直後から保健所の紹介で作業所に入るまでの軽いショック状態から立ち直り、自分の生き方を考えたうえで、まず職に就き安定して働けるようになるまでの過程を説明しました。働いてみると、それまで考えていなかったことがいろいろ見えてきました。

ひとつは自分が意外に仕事に追いついていけること。年配になってからの就職であったので一番気になったものでしたが、まずはひと安心しました。また何人かでチームを組んでの作業が多かったのも、その点チーム内でのトラブルに困るのではないかという危惧やそれに伴う人間関係が心配でした。それはスタッフのサポートとしっかりしたマニュアルが有ったので大いに助かりました。チームを組んでの作業はそれでも困難な面もありましたが、ひとりひとりの能力の差や、その時の体調の良し悪しでチーム内での作業の仕方のバランスが崩れることが、ままありましたので各人のコミュニケーションをしっかり取ることで乗り切れました。

職に就いてから現在までの来歴とともに、看護学科の講演というので入院中に感じた、特に看護師さんの印象など気が付いた事柄をお話しました。

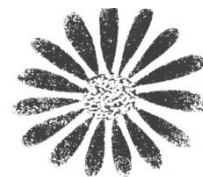
百人近くの人を相手に話すのは気が重い面もありましたが、始まってしまえば何とかなんと開き直ったつもりで話しました。質問の時間になって、自分の予想とは違う質問が来て少しあわてましたが、何とか乗り切れました。二度目の講演では意外と同じ事柄に関する質問が多く、発症したころの周囲の反応に興味があるようでした。私的な領域でもあり話しづらかったのですが、ありのままを話しました。親戚の信頼と多くの友人を失ったということです。

こうした講演を重ねたのは、自分の行動をあらためて考え直しまとめて見る良い機会にもなりました。一度目の講演での学生さんからのレポートを拝見して、思ったより自分の話が伝わっていて、皆さんそれぞれの意見を出されているので感心してしまいました。

改めて誤解のなきよう適確に伝えることの大切さに思いをいたしました。

(久保山斎場駐車場：佐藤修)

「さらに働いて、そして、これから・・・。」



さらに働き始めて15年が経ちました。一口で言って15年という年月は私にとって短い物ではありませんでした。色々なことがあり、色々な人と出会いました。その事は自分にとって人生の宝だと思っています。自分は精神障害者ですが、その事もマイナスにとらえていません。なぜなら、今は、誰も自分を障害者という認識で接してくる人はいないからです。その事から自分を悲観することなく自分を肯定する事が出来る様になりました。言うならば、今の周りの環境や周りにいる人々に素直に感謝出来る様になり、自分はそれなりに幸福だと思える様になったと言うことです。自分をマイナスの方へ追いやる事、たとえば、意思の力を超えた物事には悩まないとか変えられない現実のことは考えないという事などを実践して、自分の心を安定させる事を大事にしていればもう不幸な気持ちにはならないのではないかと思います。

そして、今思っている事はどんな小さなささいな夢もこつこつ叶えていこうということです。その為には、日々の努力や精進はかせませんが、きれい事ではなく本当の意味での輝きのある人生にしていこうと心から思っています。

(さら：小林公明)

「トライ！を受講して・・・」

きっかけ

自分は20年前に交通事故を起こし高次機能障害と診断されました。その時にいろいろな人に助けられたので、今度は自分が人の助けになりたいと思っていました。トライで介護職員初任者研修の講座があることをスタッフから聞き、このまま諦めるのではなくこの講習を受けました。

良かった事

授業で毎回レポートを書き提出するのですが、授業があった日の夜は必ずノートやテキストを見てレポートを書くことで、今まで家に帰りすぐに寝てしまうことが多かってけど今は必ず机で勉強する時間が増えました。

トライで新しく出会いがあり仲間ができました。

大変な事

毎回新しいことを習い、授業の時間が短く覚える前に次に進んでしまい大変です。

毎回先生が違うので教え方も違い大変です。

今後の夢や希望

老人ホームや施設で働きいろんな人に接して助けになりたいです。

今まで母親に迷惑をかけてきたので、今度は自分が母親の老後の面倒を見て行きたいです。

(J/W：岩本龍二)

「支援と雇用について」

当時、私が鬱病から休職し退職することになった際に、支援制度や支援施設がある事を知らず大変不安であった事を思い出します。今後の生活に対しての経済的な事や、鬱病である自分が再就職できるのか？失業してからどうすればいいのか？などの事が全く分かりませんでした。

私はたまたまインターネットで障害年金や自立支援制度、障害者手帳、就労支援施設などの存在を知り、行政の支援を受けることが出来ましたがパソコンを持っていない人、持っても使う事ができる状態でない人などにとっては支援を受ける資格があるはずなのに、存在すら知らず困っている方もいると思います。

さらに支援の存在を知っても申請に手間や時間がかかりかかりました。申請を受けるにあたって書類も多数あり、病気の回復期に複雑な書類を何種類も読まなければならないのは非常にストレスになりました。

また、どこの窓口にいけばいいのか、何が必要なのかが分かりにくく、あちこちに何度も足を運ばなければならず非常に大変でした。普通の人であっても外に出たり人ごみに何度も行くことは大変ですが、障害を抱える人にとってはさらに大きな負担になります。支援の存在をもっと目につくところに、そして、手続きをもっと分かりやすく簡単にしたいと思っています。

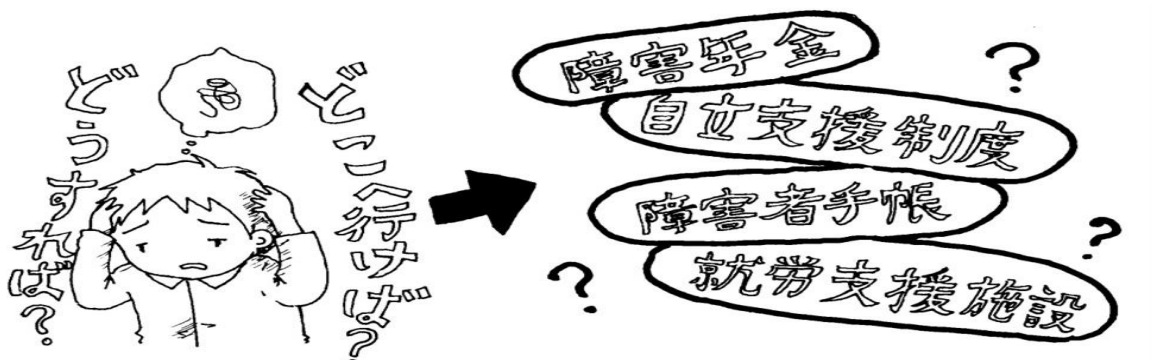
また現状では企業の精神障害者に対する理解がなかなか進んでいないという実態もあります。

自分がいた会社は鬱病に対する知識が無く、当初は鬱病になった自分は全く理解されませんでした。自分が休職、退職したことで会社の内部でもメンタルヘルスケアについての認識が広まり理解されるようになったようです。

精神障害者の中には一見すると普通の人と見分けがつかないような症状の方もおり、企業が精神障害者を雇用するにあたって、かえってそれが理解されにくい原因になっていると思います。普通の人とほとんど同じなのに何が違うのか？どう接したらいいのか？などちょっとした知識を企業が知ってくれるだけで精神障害者は十分な労働力になることが出来ると思います。もっと国や自治体からも精神障害者に対する理解や配慮を企業に働きかけて欲しいと思っています。

最後に、企業や行政だけでなく、精神障害者自身も自分の病気に対して勉強していくことも重要だと思います。調子が悪くなった時に自分で感じるサイン、対処法などを学んでいくことで自分自身も社会復帰がしやすくなると思います。

(匿名)



横浜 SSJ 相談支援室 開設お知らせ

横浜 SSJ では、8 月より指定特定相談支援事業者・計画相談支援事業所「横浜 SSJ 相談支援室」を開設しました。(事業所番号 1430601045・サービス種類コード 52)

場所は、以下の地図にあります相鉄線「天王町」から徒歩 3 分の、ジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズの 1 階・とちの木横の面談室です。(保土ヶ谷区、西区、中区エリア)

月・水・木の 13:00~17:00 の時間帯を中心に行います。

内容は、①障害福祉サービス等を希望する方々のためのサービス等利用計画の策定

②障害福祉サービス等を利用している方々のモニタリングです。

具体的には、重要事項説明・利用契約の後、以下の流れで行います。

① A 個別相談資料作成→B ケース会議によるサービス等利用方針の決定→C 受給者証の発行

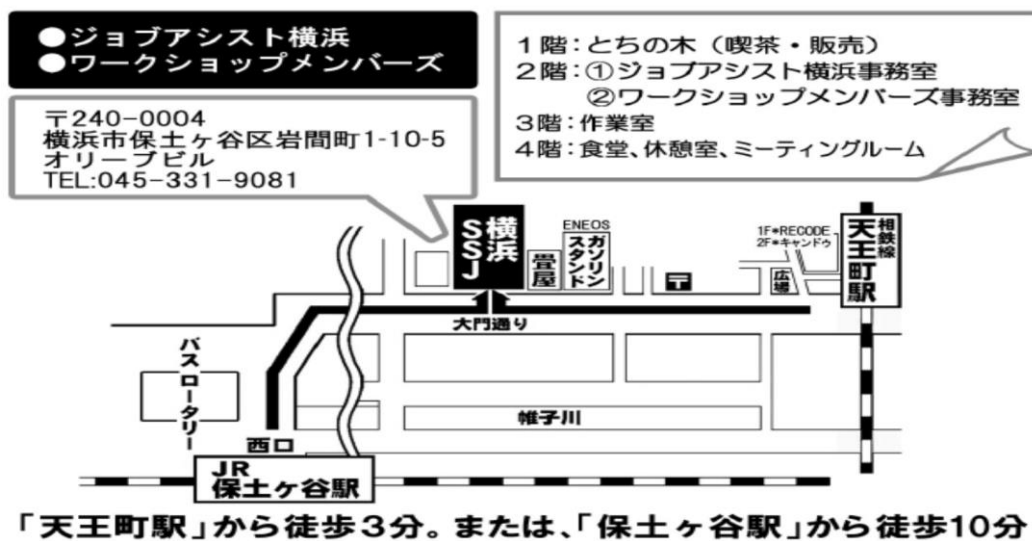
② A 個別相談資料作成→B サービス利用状況の確認→C ケース会議によるサービス等利用方針の決定

(この間、資料確認と押印をお願いします)

利用を希望される場合は、居住の区役所の担当者の方へお願いします。

担当：相談支援専門員・青柳智夫

相談室携帯電話：090-2568-5727



《事務局長就任にあたって》

- ・今年4月16日付で事務局長になりました宇佐見と申します。
- ・昨年の3月末までサラリーマンとして、永年にわたり総務経理に関する実務を行ってきました。現役時代に心掛けていたことは、仕事は期限前に余裕をもち嫌な仕事から終わらせる。後任の為に年間業務予定表＝業務マニュアル的な資料を作成する事です。
- ・趣味としては、読書・映画鑑賞・絵画鑑賞など、健康維持の為に早朝散歩を日課にしています。1日の目標は1万5千歩にしています。
- ・横浜SSJ事務局に週3日の勤務ではありますが、書類のファイリングなど気が付いた事から実行してまいります。事務局の役割は全体の取り纏め、各事業所のサポート役と認識しておりますが、NPO法人の勤務は初めてで「???」の事も多々あります。皆様のご意見を聞きながらより良い法人にしたいと思っておりますのでご協力のほど宜しくお願いいたします。

(事務局長・宇佐見俊雄)



《会費納入報告》

2014年4月から8月末日までの会費納入者

個人会員 31名
団体会員 29団体
賛助会員 8名



いつもありがとうございます。

精神保健福祉の向上のため、大切にさせていただきます。

編集後記

先日、日産スタジアムで開催されたバザーに参加してきました。作業の一環として皆で知恵を出し合い、作ったアクセサリーやミサンガが飛ぶように売れ、とっても嬉しかったです。
(ちらっしー)